

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

論述 計算 記述 選択

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

図や問題文を丁寧に解釈しなければならない問題があって、全体の難易度はやや難化した。

出題の特徴や昨年との変更点

内容把握が難しい問題や簡潔に説明する論述力を必要とする問題が多いことは例年通りであった。また、第3問では地質図が扱われた。

その他トピックス

第1問の図1-1は白色矮星の列が示されていて、戸惑ったかもしれない。また、第3問の間1(3)・(b)は、深さ40kmでのP波の屈折の仕方まで考慮しなければならず、難しかったと思われる。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述 計算 選択	宇宙	地学基礎 地学	星団とHR図, 太陽 題意を的確に把握することが必要である。	標準
第2問	論述 計算 記述	大気・海洋	地学基礎 地学	降水過程, 海流 論述を簡潔に素早くまとめることが必要である。	標準
第3問	論述 計算 記述 選択	地球	地学基礎 地学	地震, 地質図 図と問題文を丁寧に読み取って考察し, 論述や計算を素早く行うことが必要である。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

例年、題意を的確に把握する力や高度な思考力を必要とする問題が多く出題されている。差がつく問題はこのような難易度が高めの問題であるので、過去問などを通して十分に練習をしておこう。また、計算や論述を正確に素早くできるようにしておきたい。

難易度は年によって異なり、今年のように難易度が高くなっても対処できるようにしておこう。古い過去問も可能な限り参照して、東大地学の問題に慣れておこう。

分量が多く、制限時間内にすべて終わらない場合は、難易度の低い問題から確実に解いていくことが重要になる。時間を区切って過去問や模試を解くことで、難易度の見極めや時間配分を適切にできるようにしておこう。